100周年記念講演

東京大学薬学部 教授 池谷 裕二 氏

卒業して時間が経つほどに母校のことが好きになる。節目においては過去100年を振り返るだけでなく、今後100年を考えることが大切だ。脳とAIを融合させたらどうなるか。皆さんの脳の中には眠った能力がある。これをAIを使って覚ましてやることが可能だ。東校の第二応援歌に「健児脚肉を嘆ぜしが」とある。三国志の猛傑が戦いの機会がなくて贅肉がついたことを嘆いた話に由来するが、これと同じで脳には、眠った能力がたくさんあるのに使っていない。

脳とAIとどちらが優れているかは分野による。AlphaGoがヒトに勝った。「創造　発想　芸術　ひらめき」、ここに挙げた4つはAIが得意なところ。「気遣い　気が利く　カウンセリング」も同様。どうしてこういう言葉があるのか。ヒトにはできないからだ。共感力もAIに負ける。ヒトは苦手なことをやらされて、そのストレスからAIが解放してくれると考えればよい。

ヒトが囲碁の対局を続けているのは楽しいから。AIはどんなに強くても、楽しんでいるのではない。「楽しんで生きる」はヒトにしかできない。熱意をもって前向きに、好奇心を持って笑顔で陽気に、ついうっかり友達と大喧嘩する、こういったものを含めて人間らしさだ。

やる気は、脳の側坐核から生まれる。バイオフィードバックの訓練を受けると自身の心拍数や血圧などをコントロールできるようになる。これと同じように側坐核も自身で活性化させることができる。どうやって活性化させたか聞くと皆一律に「楽しいことを想像することがコツ」と言う。ここでも「楽しんで生きる」に行きつく。藤枝東高の「至誠一貫」もそういうことだ。楽しんで真面目に一つのことに好奇心を持って、貫く。

笑うと楽しくなる。楽しいから笑うのではなく、身体がスイッチになって感情が芽生える。身体には、表情と姿勢があるが、ガッツポーズをするとやる気になる。身をのり出して聞くと、おもしろくなる。姿勢の方が大切だ。「やる気」という単語は無能な人がつちあげた方便だ。やる気はすぐ冷める。勉強や仕事はむしろ熱意だ。

私の研究室に掲げてある言葉「知好楽」は論語の言葉。「知るものは好むものにかなわない。好むものは楽しむものにかなわない」。そう、楽しんで生きよう。コンピューターは膨大なエネルギーを使うが、人間の脳はコストパフォーマンスがよい。ヒトもAIを必要とするが、AIも人間を必要とする。これからの時代は、ヒトとAIが協力し合っていく時代だ。勉強にもAIを使ってほしい。私の授業では生成AIを使わせるが、学生は昔よりレポートを書く時間が余計にかかるようになったと言う。AIの性能に見合っただけの勉強が、もっと必要になる。AIとうまく付き合って、脳を使って楽しんで生きてほしい。

おれの言葉として山田生徒会長は「脳AIは不可能を可能にするという言葉にとても感銘を受けました。スケートのジャンプを見分けることやネズミが言語を区別するということも難しいことを、脳にAIを埋め込むことで可能にするという未来が待っていると思うとわくわくします。これからの人生を楽しんで生きる、笑顔で生きることが人間らしさであるということだとわかりました」と述べた。

また、講演を聞いた生徒は、「人間の得意分野だと思っていた『芸術や創造する』ことまでAIに追い抜かされていく社会に不安を抱いていたが、人生や社会を豊かにするためにAIの能力を人間が活用していく、そういった姿勢が大切なのだとわかった」「AIの医療への利用について以前から気になっていたが、チップを埋め込んでロボットを動かしたり、脳に装置を取り付けて障がいのある方のサポートをしたり、できなかったことができるようになることに感動した」「AIによって様々なことが便利になる世の中であっても、学習を放棄してしまうのではなく、AIを自分のものとして、ツールとして、興じていることや熱中していること、さらに知りたい見たい聞きたいといった好奇心を引き出し、未来の可能性を広げたいと思った」などと語った。

随想

霞が関よりご報告

財務省大臣官房参事官
（主計局担当）
八木　瑞枝
（64回、1991年卒）

私は大学卒業後、2年半の民間金融機関での勤務を経て国家公務員を志し、平成11年に金融庁（当時は金融監督庁）に入庁しました。金融庁は、ざっくり申し上げれば、金融システムの安定や金融機能の円滑化、利用者の保護などを目的とし、金融に関する政策立案、検査・監督などを行う組織です。

金融庁は、金融機関に勤めの方以外にはさほど名の知れた組織ではないかと思いますが、2013年にドラマ「半沢直樹」が放映された際には一躍有名になりました。ドラマの中で片岡愛之助さん演じる「黒崎検査官」が所属していた、半沢直樹の動める銀行とは敵役？の組織です（実際には、黒崎検査官のモデルと言われている検査官は厳しいながらも大変立派な方ですし、半沢直樹の行った資料隠蔽などの検査忌避は違法行為です、念のため（笑））。

私自身はこれまで、金融機関の検査や法令など担当しましたが、最近では金融機関の監督業務に長く従事してきました。昨年より、金融庁のお向かいに位置する財務省に出向中で、これまでと全く異なる財政に関する業務に携わらせていただいています。

なお、最近よく霞が関は「ブラックな職場」で、国家公務員志望者がどんどん減っているという記事を目にしますが、金融庁に限って言えば、私が入庁したころはリアルブラック企業で、月150時間以上の超過勤務は当たり前、終業後に予定を入れるなんてもっての外、という雰囲気でしたが、現在では働き方改革がかなり進みました。まだ世間の常識とはズレている部分もあるかもしれませんが、かなり特殊なケースを除いて月80時間を超える残業は見なくなりましたし、何より、男女問わず子育て世代が子育てを優先できる雰囲気が醸成されてきたと思います。私自身も子育てしながら仕事を続けています。財務省も組織改革を進めていますし、霞が関全体としても少しずつ意識が変わってきているのではないかと感じています。

こんな感じで卒業後は藤枝にはあまり縁がない生活を送っておりますが、霞が関界隈では、静岡県人会で藤枝東の大先輩とのご縁があったり、藤枝東出身者の会合にお声がけいただいたりと、度々藤枝東卒の有難みを感じています。「サッカーが応援したい」という強固な？志望動機により、中学の担任教諭に呆れられつつ受験した高校でしたが、30年以上前にこの選択をして良かったと感じています。藤枝東高校の益々の発展を陰ながら祈っております。

随想

良き悪友

前副会長
各務　博俊
（40回、1967年卒）

私は、昭和四十二年三月に卒業した四十回生です。私は東校の一番良き時に在校をしていたと今も思っています。一学年四百五十人（八クラス）で女子生徒四十五人（三クラスに十五人づつ在席）という今では考えられない時代でした。

でも、サッカーは、3年生の時は1年間負け知らずの全国大会三連覇を成し遂げ今考えても物凄いことを成し遂げた時でもありました。

私のクラスは五十四人全員男子でしたが、それから六十年今でも**年二回**集まっては（会の名前は、先生に敬意を表し**「かわとん会」**と命名）飲み明かします。担任の先生が生存中は（河井琢馬先生通称トンマ）ももちろん仲間でした。第一回目は昭和六十年八月十七日　学校の前の「魚久」でした。

今でも夏と冬に会っていますが顔を見たとたんにあの頃に戻ります。しわくちゃな顔、髪が無い顔、髪が黒々としている顔、足腰が弱っている顔と本当に楽しいひと時です。又、いろいろな職業に就いていて面白いな（医師・僧侶・神主・サッカー監督・料亭オーナー・警察官・文具店オーナー・銀行員・教師・各種自営業・各種サラリーマン）今は大部分が年金生活者ですが…。

次の思い出は、校舎のことです。今年、第一校舎の建て替えが終わり、旧校舎は解体が行われています。私の時は木造二階建てでした。三年の時、第一校舎の建て替えが決まり、今までの校舎を今の自転車置き場のところに引きずり移動しそこで一年間居たものでした。私は窓側の一番後ろの席で横の壁に穴が開いており西校の校舎が見えていました。今考えればありえないことです。しかし三年間クラス替えもなく友情は深まったものです。

次の思い出は、不条理な校則の件、窮屈で死にそうでした。

例えば、**帽子の着用**…先生が校門と本通りの入り口に立っており無帽が見つかると、職員室の黒板に氏名を書かれ担任に呼び出され怒られた。トンマは笑い顔でだめだよーという**冬のコート禁止**…風邪の診断書がないとダメ。やはり見つかると職員室で怒られた。トンマは、もっとうまくやれといいましたが。

学生服のすべてのボタンを掛けること…一番上のホックが開いていると注意をされる。

まだまだいろいろありましたがまたの機会に。

皆さんも是非同期会、クラス会をして昔に気持ちだけ戻ったらどうですか。中学、小学校よりやっぱり高校ですよ。

伝承と新風 ～100周年に寄せて～

教頭
田中 加奈子

昨年4月より教頭として勤務することになりました田中と申します。私は、東高に平成30年に赴任し、英語教諭として6年間勤務してきました。知的好奇心旺盛な生徒たちに囲まれ、授業はもちろん、千南祭、体育大会、藤色一色の全校応援、台湾での研修旅行等、数多くの学校行事を通して、かけがえのない思い出を作ることができました。一方、大変な時期も経験しました。新型コロナウイルス感染症拡大時に閉校となり、学校は窮地に追い込まれました。しかし、生徒教職員は「ピンチをチャンスに変えよう！」と、動画での授業配信やオンライン千南祭等を実施するなど、協力して危機を乗り切りました。3万人近い卒業生の方々が培ってくださった伝統ある東高の教育活動を守らなければ…そのような気持ちが皆の心にありました。

感染症が収束し、教育活動も落ち着き、昨年は東高が創立100周年を迎える年となりました。私は、そのような記念すべき年に、教頭という立場で勤務するプレッシャーと共に、継続して東高に勤務し、記念事業に携わることができた喜びを感じています。8月に、記念事業のアメリカ研修の引率として、代表生徒4名とテキサス州ヒューストンを訪問させていただきました。移民の国であるアメリカで、多様性を受け入れ、新しいことに挑戦する大切さを学びました。

100周年のスローガン「伝承と新風」のように、これまで築き上げた東高の伝統を引き継ぎながら、新たな一歩を踏み出せるよう、同窓会の皆様の協力を仰ぎながら、微力ではありますが尽力していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

100周年記念講演会

長谷部 誠 氏

元サッカー日本代表主将の長谷部誠さん（75回）による100周年記念講演会が7月12日、東高新体育館で行われた。

長谷部さんは1999年に東高入学。サッカー部へのあこがれもあったが、同時に文武両道を追求する姿に魅力を感じ、東高の門をたたいたとのことだった。当初は多くの仲間がそうであるように、大学に進学してサッカーを続けるつもりだったが、3年生の途中でプロの世界に飛び込むことを決意し、2002年、卒業と同時にJリーグの浦和レッズに入団。8年にドイツに渡り、24年5月まで世界トップリーグの一つであるブンデスリーガで活躍した。日本代表にも選ばれ、10年の南アフリカ大会から18年のロシア大会まで、ワールドカップで3大会連続、主将を務めた。

取り立てて身体能力に優れた選手ではなかった、と自己評価する長谷部さん。では、なぜ、プロの第一線で20年以上にわたりプレーできたのか。いまやるべきことは何か、その課題をクリアする適応力を持っていたから―では、と振り返った。

そんな長谷部さんは、会場を埋めた在校生たちに、自分をよく知ること、その上で当たり前のことを当たり前にやる、積み重ねの重要性を強調した。

東高1年の歩み

2023年9月28日 体育大会

秋晴れの空の下、体育大会が開催されました。一年生の高校生体操は、23年からクラスTシャツでの実施となり、カラフルに人工芝を染めました。

2023年11月27～30日 修学旅行

福岡、長崎、熊本など九州北部をクラス別に周り、研修に真剣に取り組む一方で、仲間との親睦をさらに深めました。

「留学生との交流を通して異文化に触れることができた」など、有意義な研修でした。

2024年1月31日 マラソン大会

天候にめぐまれ、快晴の中、男子は12キロ、女子は7キロをそれぞれ走り抜きました。沿道での地域の皆さんや、園児の皆さんの熱い声援に後押しされ、生徒全員がゴール。ゴール後の爽やかな笑顔が印象的でした。

2024年3月1日 卒業式

穏やかな陽気の中、旧校舎で三年間を過ごした最後の学年となる273名の生徒が本校を巣立っていきました。久々に、吹奏楽による校歌演奏もいきました。それぞれの道を柔軟に選び取って進んでいくことを願います。

2024年4月5日 入学式

新たに289名の新入生を迎えました。100周年の記念すべき年の入学生が、この伝統ある藤枝東高校に、新風を起こしてくれることを期待しています。

2024年5月31日・6月1日 文化祭

文化部の展示、ステージ発表を中心に、1年生は、黒板アート、2年生は、クラス展で、お化け屋敷やティーカップ、カジノなどのアトラクション、3年生は夢の祭典を行いました。来場者数は2380名で、大盛況でした。

2024年6月18日 新校舎での生活スタート

2、3年生は新校舎での学校生活となりました。

あいにくの大雨の朝でしたが、真新しい教室で、笑顔で朝の会をスタートしました。プロジェクターで黒板に投影されるスライドも見やすくなり、授業にもより力が入ります。

2024年6月26日 ライス大学の学生訪問

アメリカのテキサス州ヒューストンにあるライス大学の学生13名が来校しました。歓迎のセレモニーの後、教室で一緒に昼食をとり、授業にも参加しました。英語でのコミュニケーションを楽しみました。

2024年7月9日 台南市のプレゼンテーション大会

姉妹校提携を結んだ台湾の国立台南第一高級中学主催のSDGsに関する高校生のグループプレゼンテーション大会で、上位2番目にあたるCertificate of Merritを受賞しました。内容は「本校の校技であるサッカーとSDGs」について。

2024年7月22・23日 校内大会

本年度のクラス対抗の球技大会は、熱中症の対策に伴い午前中のみの開催となりました。サッカー、バレー、卓球の各種目で日頃の練習の成果を発揮し、白熱した試合を繰り広げました。

藤枝東高等学校同窓会
令和5年度 維持費集計 (回別)

維持費の納入金額が年々減少しています。

下記内容を参照され卒業回別の横のつながりを強化していただき一人でも多くの方が会費納入にご協力くださるようお願い申し上げます。

参考：30回（昭和32年卒）40回（昭和42年卒）50回（昭和52年卒）
60回（昭和62年卒）70回（平成9年卒）

回	金額	回	金額	回	金額	回	金額	回	金額	回	金額
5	6,200	30	76,800	44	74,400	58	14,600	72	2,200	86	8,800
13	4,200	31	118,000	45	86,800	59	66,800	73	10,400	88	21,400
17	4,400	32	117,200	46	86,000	60	70,200	74	10,400	89	8,800
18	4,000	33	79,600	47	187,200	61	23,000	75	6,000	90	8,600
20	2,200	34	79,600	48	108,800	62	35,800	76	25,000	91	11,000
21	2,200	35	118,000	49	79,400	63	27,000	77	2,000	92	13,000
22	12,400	36	91,400	50	72,400	64	27,000	78	17,000	93	13,200
23	6,600	37	52,800	51	63,600	65	46,600	79	33,600	94	10,600
24	6,600	38	94,000	52	70,600	66	69,400	80	8,600	95	6,600
25	23,200	39	363,200	53	78,200	67	42,200	81	8,800	96	30,400
26	25,200	40	186,600	54	33,800	68	16,800	82	12,800	不明	4,000
27	47,600	41	112,000	55	86,200	69	16,600	83	13,000		
28	69,200	42	84,600	56	71,600	70	16,400	84	13,200		
29	51,000	43	75,600	57	31,800	71	4,000	85	8,600	合計	3,829,600

令和6年3月